

# デイリー受発注と在庫削減を実現した 資材調達計画/生産管理システム

いま製造業の現場では、製品の多品種小ロット化が進行する一方で、企業競争力を高めるための在庫適性化、製品価格の引き下げ、短納期化への対応など、かつてない大きな環境変化が起きている。こうしたなか、適正なコストで最大の利益を上げながら、顧客満足度を高めていくには、受注から出荷までのリードタイムを短縮し、市場動向をスピーディに生産現場へと反映する生産管理システムが必要です。そこで自動車車体メーカーの高田工業株式会社は、日立のサプライ・チェーン・プランニング・パッケージSCPLANを導入。デイリーオーダーに対応したタイムリーな資材調達と在庫削減を実現しながら、より効率的でスピーディな生産管理システムの構築に乗り出しました。

## SCMへの取り組みを SCPLANで明確化

1950(昭和25)年の創業以来、デザインから設計、生産までを一貫して行う自動車車体の専門メーカーとして、長い歴史を刻んできた高田工業株式会社(以下、高田工業)。その卓越した技術とユニークな創造力は、取引先である日産自動車が80年代に限定生産で話題をさらったBe-1、PAO、FIGAROなどのバイクの委託生産、オープンエアにこだわった独自のスペアリティーカー製造でも見ることができます。

そして、旧型車も含めた日産自動車の各種車体部品の製造を一手に担っているのが、横浜市にある同社・金沢工場。1999年に日産自動車がカルロス・ゴーン氏のもとスタートさせた経営改革「日産リバイバルプラン」は、この金沢工場にもかつてない大きな業務変革を迫るきっかけとなりました。

「当社に対する日産タスクチームからの提案は、受注をデイリー化すると同時に、製品価格の引き下げにも協力していただきたいという内容でした。実際のところ当時の

金沢工場は毎10日単位の生産計画しか立案できず、定日納入の目標値95%に対しても80%しか達成できていない状態でしたが、ここはなんとしても日産さんの要望に応えなければ、デイリー受注を実現するためのシステム構築に乗り出したわけです」

(常務取締役金沢工場長 大坂建始氏)  
「さまざまなアプリケーションパッケージを比較検討した結果、柔軟な生産計画、資材調達計画の立案と、業務の標準化をともにサポートしてくれる日立のSCPLANこそが最良のツールになると判断しました。当時SCM(Supply Chain Management)への認識がまだ乏しかった私たちにとって、SCPLANが備える数々の機能と業務改革への指針は、それまで理想としていた業務のあり方とシステムを、そのまま実現するものだったと言っても過言ではありません」

(総務部システムグループ主管 渡辺賢訓氏)

## 2段階のシステム構築で 課題をクリア

日立の製造業向けサプライ・チェーン・

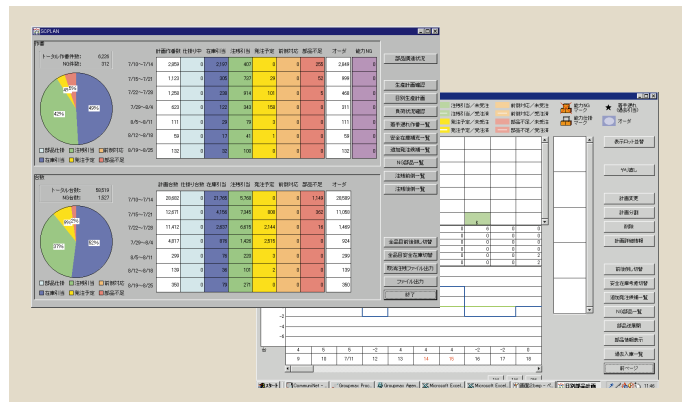
プランニング SCP パッケージSCPLANは、高速 MRR (Material Requirements Planning: 資材所要量計画) 計算エンジンにより、計画変更時の部品調達可能性や、実行可能な調達計画の最適解などをリアルタイムにシミュレーション。SCMの中核である生産計画や資材調達計画の立案を強力に支援し、製品・部品などの在庫削減や、出荷までのリードタイム短縮に大きな効果を発揮します。

高田工業は日立のSCMシステム設計サービスといったソリューションサービスも活用しながら、SCPLANを適用した計画業務の効率化をSTEP1、メインフレームから分離したC/S型生産管理システムの導入をSTEP2と位置づけた、段階的なシステム構築作業に着手。そして2001年2月、STEP1の「資材調達計画システム」の本番稼働を果たしました。

同システムは、得意先からの受注情報や購入実績、発注残の情報などを本社のメインフレームMP5400/50EXから、金沢工場にある中継用DBサーバに蓄積。品目や部品などのマスター管理、論理的な在庫計算などを行いながら、SCPLANサーバ



SCPLANを使った資材調達計画の立案



業務の流れや問題点をビジュアルに確認できるSCPLAN画面例



常務取締役 金沢工場長  
大坂 建始氏



総務部システムグループ 主管  
渡辺 賢訓氏



総務部システムグループ 主任  
小山 昇氏

USER PROFILE

高田工業株式会社

【本社】

〒231-0814  
神奈川県横浜市中区豊浦町2-3  
横浜市金沢区幸浦1-10

【金沢工場】

【従業員数】

860名

【事業内容】

自動車の製造組立・販売、自動車の車体・  
部品の製造組立・販売  
日産自動車株式会社、いすゞ自動車株式  
会社、日産ディーゼル工業株式会社、三菱  
自動車工業株式会社、日産車体株式会社、  
富士重工株式会社

【主要取引先】

(H9000V/VK390)に情報を提供し、MRP  
計算をはじめとした資材調達系の業務を  
実行します。その後、算出された資材発注  
指示情報を中継DBサーバを介してメイン  
フレームへ返し、取引先とのEDIシステム  
である高田調達サーバを通して、資材発注  
をかけるという仕組みです。

「SCPLANの導入で、これまで手作業で  
行っていた受発注の自動化とスピードアッ  
プ、製品・部品在庫と連動したタイムリーな  
資材調達計画の立案が実現しました。今  
まで月3回しかなかった発注チャンスが月  
20日に増えたこと、MRPの在庫引当機  
能による在庫の適正化により、資材を納め  
るために使っていた600坪の倉庫が、数か  
月後にはまったく使う必要がなくなりました。  
月300万円かかっていた倉庫代、搬出  
用のフォークリフトやスタッフのコストも含め  
ると、これだけでも大幅なコスト削減です。  
さらにデリー受発注の仕組みが整備され  
たことで80%台だった定日納入率も、今で  
は90%台をねらえるまでに向上しました」  
(渡辺氏)

「メインフレーム系のシステムで問題点  
を分析しようとする、どうしても紙ベ  
ースのアウトプットに頼る形になってしまい、  
解析にも手間と時間がかかります。しかし  
SCPLANなら、画面上で問題点をビジュ  
アルに表示してくれるので、内容が直感的  
かつリアルタイムに理解でき、トラブルを未  
然に防止できます。経験や勘を重視した業  
務のやり方は、自分たちだけではすぐに変  
えられない傾向がありますが、こうした優れ

たツールが入ったことで、現場では業務の  
標準化や意識変革への動きも活発化して  
きました」  
(総務部システムグループ主任 小山 昇氏)

今後は工場ラインにも  
適用予定

「正直なところ、STEP1の段階では  
SCPLAN本来の機能とポテンシャルを十分  
に引き出せているとは言えません。それ  
は生産管理システムの評価ツールである  
べきSCPLANを、私たちが無理矢理に発  
注用ツールとして使っているからなんです  
ね(笑)。そこで現在進めているSTEP2で  
は、これまで本社のメインフレームで動か  
していた生産管理、工程管理の仕組みを、  
金沢工場独自のC/S型システムとして2001  
年11月に立ち上げ、SCPLANと有機的に  
連携させるつもりです。

これにより、製品・部品在庫と連動した  
タイムリーな生産計  
画の立案や、管理  
工数の削減と精度  
向上などが実現で  
き、定日納入率  
97%を達成できると  
確信しています。そ  
してその成果を部  
品製造だけでなく、  
同じ工場内のい  
すゞ自動車さんや  
日産ディーゼル工



シルビア コンバーチブル バリエッタ

業さんのラインにも適用していく予定です」  
(渡辺氏)

顧客ニーズに対応した業務改革を進め  
ながら、経営効率のスピードアップや在庫  
適正化による企業競争力強化を図る高田  
工業。その積極的な経営戦略をSCPLAN  
はこれからも強力にサポートしてまいります。

日立SCMソリューション、SCPLANの詳細は、下記ホーム  
ページをご覧ください。

<http://www.hitachi.co.jp/scm/>

<http://www.hitachi.co.jp/soft/scplan/>

会社名、製品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

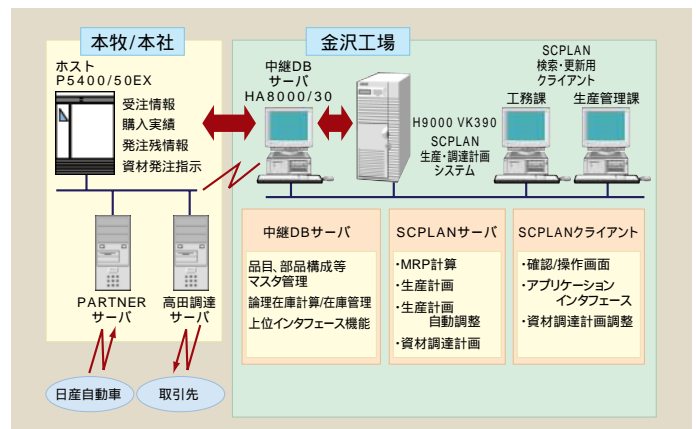


図1 SCPLAN構成イメージ

お問い合わせ先

(株)日立製作所 ソフトウェア事業部 販売推進部  
TEL(03) 5471-2592 FAX(03) 5471-2395

情報提供サービス

<http://www.hitachi.co.jp/soft/>